

2016年5月21日(土)「本の病院」

何度も手に取って読むうちに傷んでしまった本、小さな子どもが友だちのように親しんできた本、そんな愛着のある本を修理させていただく「本の病院」を開催いたしました。今回で6回目のこのイベントは、参加者が年々増え、今年は36名の方にお越しいただき、修理した本は79冊にのびりました。

「図書館で働いている人を思い浮かべて下さい」と言われてどんな仕事を思い浮かべますか？調べものや、本の貸出と返却、返却された本を元の棚に戻す作業などが一番イメージしやすいでしょう。でも表には見えない大切な仕事がたくさんあります。本の修理もその一つです。

中央図書館には本の修理や装備を専門に作業するスタッフがいます。図書館の本にはビニールが掛けられていますが、このビニールを掛ける作業を1冊2分弱で行う職人です。図書館の修理は復元ではなく再活用が目的です。ページが外れてしまった本には専用のりを入れ、破れたページには専用テープを貼ります。1冊の本を長年にわたりたくさんの方が利用する図書館では、本の修理は無くってはならない大切な仕事です。

当日は、修理専門スタッフの指導の元、簡単に直せるものはお客様にも修理を体験していただきました。



仮り留めされたセロハンテープは剥離液を使って丁寧に剥がします。



楽譜のノドがパッキリ割れています。専用のりを入れすぎないように、細い竹串を使って、少しずつ慎重に入れています。



のりを入れたら重しをして休ませます。のりが渴く頃には、本もピシッとなっているはずです。

あれ？これはどこが？
いえいえこれは修理が済んだ
本をチェックしています。きれいに仕上がったようですね



修理専門スタッフに修理手順を聞き、いろいろな道具を使いながら修理を進めています。

「子どもとの思い出のある絵本がよみがえりとてもよかった」
「壊れた本の直し方をインターネットで調べたが、実際は難しいので、こういうイベントがあるのはありがたい」と感想をいただき、スタッフ一同、暖かい気持ちになりました。お役に立てたことを嬉しく思います。
「本の病院」は年に一度、5月頃開催いたします。またたくさんの方にお越しいただけるようお待ちしております。